

## 第97回 病態生化学セミナー

日時：平成28年1月6日（水曜日）午後6時00分～

場所：医学部講義棟1階 国際交流ラウンジ

演題：小頭症や神経疾患に関連したDNA修復経路の異常を伴う遺伝性疾患の病態解析  
Microcephaly and neurological abnormalities associated with DNA repair deficiency

演者：荻 朋男 先生

名古屋大学 環境医学研究所 発生遺伝分野 教授

生物の遺伝情報を格納したゲノムは、さまざまな代謝産物・放射線や化学物質などの要因により常に傷ついています。ゲノムを安定に維持するにはDNA修復反応による速やかな損傷の修復が必要です。DNA修復機能の異常によってゲノムの不安定化を生じ、これが引き金となり、発がん、小頭症・低身長・奇形などの各種発育異常、神経症状や早期老化、その他多様な症状を示すゲノム不安定性遺伝性疾患を発症します。本セミナーでは、これらゲノム不安定性疾患のうち、コケイン症候群、ゼッケル症候群、ファンコーニ貧血症候群など遺伝性小頭症に着目して、各種神経症状とDNA修復機構の異常との関連についてお話しします。

【荻 朋男】

Chaowan Guo et al., XRCC4 deficiency in human subjects causes a marked neurological phenotype but no overt immunodeficiency. The Journal of Allergy and Clinical Immunology 136, 1007–1017 (2015)

連絡先：

浦野 健

島根大学 医学部 病態生化学

TEL 0853-20-2126

E-mail turano@med.shimane-u.ac.jp

博士課程選択必修科目：基礎医科学(3)、

博士課程選択科目：細胞生物学I(6)、老化II(20)、発生生物学I(15)、発癌I(22)、腫瘍生物学I(24)、II(25)、III(26)、臨床腫瘍学I(28)、II(29)、III(30)、IV(31)、V(32)、VI(33)、地域がん治療学(37-1)、口腔腫瘍学(37-2)、薬物動態学I(70)、腫瘍免疫学I(79)、理工医学のための生物材料学(103)

医科学専攻(修士課程)選択科目：

腫瘍の発生・増殖とその制御(23)、理工医学のための生物材料学の基礎(34)を履修している学生は、できる限りこのセミナーに出席してください。